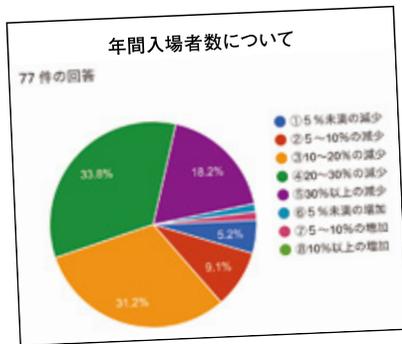


今年上半期を 総括

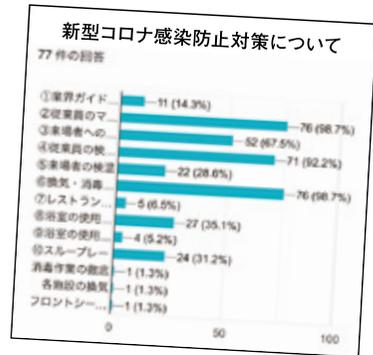


GoTo
トラベル
キャンペーン

コロナ対策や入場者動向



本誌
上半期総括
アンケート



今年は新型コロナウイルスの蔓延で従来状況と一変している。

ゴルフ場は観光や飲食業ほどではないにしろ、前例のない大打撃を被った。しかも7月中旬からは第1波を上回る感染者数が国内でも報告された。

7月22日から東京都発着を除きスタートした政府の「GoToキャンペーン」は利用者が戸惑う状態でありながらも、西村康稔経済再生担当相が7月26日に、企業には4月の緊急事態宣言時を思い起こさせるような「出勤7割減」を目指すよう要請する考えを明らかにして、再び混乱している。

今回は、今年上半期のゴルフ場業界をデータとアンケートなどをもとにまとめた。

GoToトラベル取扱開始 まずは旅行代金の35%割引

まず、7月22日から始まった「GoToトラベルキャンペーン」を見てみよう。

観光庁のサイトで見ると、まずは7月22日宿泊から8月31日宿泊までの旅行商品が対象となり、半額支援となるが、旅行代金からは給付金（割引額）の7割が割引き

となり、残り割引分の3割は旅行先で使える地域共通クーポンとして付与されるというものだ。

割引額（給付金）の上限は4万円以上の旅行商品で1人あたり、1万4000円（旅行代金の2分の1相当額×70%）、日帰り旅行では2万円以上の商品で7000円となる。つまり代金は最大35%OFFとなるもので、半額支援と言われるのは残り15%を地域共通クーポン券で付与されるためだ。

期間中の宿泊数や回数などに上限はなく、何度でも利用できるという。実際に販売される割引額は35%以下かつ上限以内（どちらか低い方）で、販売者が自由に設定できるということから「最大」とも付いているものだ。給付金（割引額）は旅行商品を購入した旅行会社を通じて、オンライン申請して還付を受けることとなっている。地域共通クーポン券は、9月1日以降の別途告知される日から利用できるもの。1枚1000円単位で発行される商品券で、お釣りはなし。四捨五入でクーポン券の額が決まるといふ。旅行商品1万円の場合で説明するとクーポン券は15%となるが、500円券は発行

されないのので、10000円のクーポン券のみとなる。もちろん、旅行会社が何らかの形で補助するケースがあるかも知れないが制度設計上は想定されていないので注意が必要だ。

また地域共通クーポン券は準備に時間がかかるため9月中をめぐりに開始される予定だが、旅行期間中に限って、発行都道府県と隣接都道府県で使えるという縛りもある。つまり9月までの旅行分はクーポン券が付かないだけで、旅行代金が事実上35%割引になる。旅行会社や事業者が上乘せして安くしても、地方が行った50000円の補助金支給とかではないので「1円プラン」は出てこないと思われる。

では、実際に販売を開始した旅行会社のサイトを確認しておこう。

7月27日から「GOTOトラベルキャンペーン」の取扱いを開始したJTBのサイトによると、「ご相談の際に「GOTOトラベルキャンペーン」を利用したい旨をお申し出ください。「GOTOトラベルキャンペーン」の条件に合った商品をご提案いたします。旅行代金から、補助額のうち旅行代

金割引額を差し引いた分をお支払いいただきます」と案内されている。当面、東京都発着のケースは対象外と注意書きもある。同社の場合、多数の種類の商品があるので、旅行だけでなく、ビジネスにも使えるのかも知れない。

同じく7月27日から「GOTOトラベルキャンペーン」の取扱いを開始した阪急交通社では「最大35%割引 販売開始」（一部商品は除く）として、7月22日（水）以降の旅行代金を先行的に最大35%支援（代金の1/2相当額×7割）、現在予約されている方（8月31日宿泊分まで）については、条件を満たしたうえで旅行後の申請により支援分が還付されます。また、すでに販売されている旅行



商品についても対象となり、一部を除くほぼすべての国内旅行が対象となります。と案内している。同社はゴルフの旅行

商品を集めた「スーパーゴルフパック」で専任アンバサダー役として横田真一プロを引き続き迎えて、PRしている。宿泊代や交通運賃も含んだプランだったりするので、ゴルフのプレー代だけでは比較できないが、2万円宿泊代・交通費込み2Rのプランから7千円戻ってくる考えると、お得だし、これを機に利用しようかなとも思いつつところだ。

では高速代も対象になるのだろうか？結論からいうと、今はN.O.だ。ネクスコ東日本のサイトには『現在販売している商品は、観光庁で実施する「GOTOトラベルキャンペーン」の対象外です』と記載。もつとも「対象となる商品は、9月ごろの販売を目指して準備を進めております」とあり、ネ



クスコ日本が行っているようなゴルフ場とのタイアップ企画が生まれてくるかも知れない。ゴルフ場

で直に活用できるかも知れないクーポン券が9月中に登場すれば、35%引きのところ、半額になるのだから、詳しい運用方法は未定ながら、プランの上乗せを考えるなり、方策を打っておきたいところだ。

今年上半期ゴルフ場入場者 12・46%の減少まで回復

次に、今年上半期のゴルフ場入場者数を振り返る。

本誌姉妹誌の隔日刊『ゴルフ特信』は毎月、各地区のゴルフ連盟や支配人会、ゴルフ業界誌に取材し、入場者動向をまとめている。

結論から見ると、6月のゴルフ場入場者は12・46%減で、奇しくも上半期の入場者数も前年対比で12・97%の減少まで回復してきた。

全国8地区（ただし関東は3都県のみ）の集計で、今年1月の入場者数は前年同月対比で3・21%増と暖冬もあって幸先の良いスタートを切った。2月になると中国からの新型コロナウイルスの感染が伝えられてきたが、うるう年と祝日の増加、暖冬で15・8%増の記録的な増加となった。

足元では2月下旬になると、北

2020年1～6月入場者状況

都道府県名及び地区名	コース数		入場者数		増減	伸び率	都道府県名及び地区名	コース数		入場者数		増減	伸び率
	20年	19年	20年	19年				20年	19年	19年	18年		
北海道	110	110	858,376	1,101,338	-242,962	-22.06%	岡山	36	37	570,063	628,651	-58,588	-9.32%
青森	11	11	86,184	97,992	-11,808	-12.05%	広島	42	42	684,754	759,480	-74,726	-9.84%
秋田	14	14	109,821	121,245	-11,424	-9.42%	山口	17	18	324,231	398,406	-74,175	-18.62%
岩手	18	18	163,457	175,342	-11,885	-6.78%	鳥取	8	8	80,994	91,462	-10,468	-11.45%
宮城	27	27	411,289	454,985	-43,696	-9.60%	島根	7	7	95,566	106,917	-11,351	-10.62%
山形	10	10	84,147	93,043	-8,896	-9.56%	中国計	110	112	1,755,608	1,984,916	-229,308	-11.55%
福島	24	24	322,216	378,858	-56,642	-14.95%	徳島	12	12	198,247	212,280	-14,033	-6.61%
東北計	104	104	1,177,114	1,321,465	-144,351	-10.92%	高知	11	11	196,492	229,540	-33,048	-14.40%
栃木	102	102	1,717,213	2,033,269	-316,056	-15.54%	愛媛	19	19	286,207	326,049	-39,842	-12.22%
東京	16	16	346,743	435,994	-89,251	-20.47%	香川	17	17	277,577	309,982	-32,405	-10.45%
山梨	38	38	545,078	671,919	-126,841	-18.88%	四国計	59	59	958,523	1,077,851	-119,328	-11.07%
3都県計	156	156	2,609,034	3,141,182	-532,148	-16.94%	福岡北	23	23	457,121	520,741	-63,620	-12.22%
愛知	45	45	887,212	1,015,246	-128,034	-12.61%	福岡南	25	25	513,396	599,589	-86,193	-14.38%
岐阜	56	56	1,121,942	1,284,160	-162,218	-12.63%	佐賀	15	15	295,418	329,582	-34,164	-10.37%
三重	49	49	997,337	1,062,223	-64,886	-6.11%	長崎	21	21	318,207	348,796	-30,589	-8.77%
福井	10	10	133,369	148,275	-14,906	-10.05%	大分	19	19	378,461	402,024	-23,563	-5.86%
石川	21	21	305,078	366,523	-61,445	-16.76%	熊本	34	34	529,490	632,468	-102,978	-16.28%
富山	13	13	164,506	187,985	-23,479	-12.49%	宮崎	17	17	348,160	389,309	-41,149	-10.57%
静岡	4	4	67,165	78,306	-11,141	-14.23%	鹿児島	25	25	430,080	484,040	-53,960	-11.15%
長野	5	5	24,817	42,345	-17,528	-41.39%	沖縄	14	14	362,778	424,849	-62,071	-14.61%
中部計	203	203	3,701,426	4,185,063	-483,637	-11.56%	九州計	193	193	3,633,111	4,131,398	-498,287	-12.06%
滋賀	29	29	529,876	616,225	-86,349	-14.01%	全体計	1,172	1,174	19,279,490	22,151,994	-2,872,504	-12.97%
京都	25	25	515,235	569,214	-53,979	-9.48%							
奈良	30	30	566,903	618,406	-51,503	-8.33%							
大阪	29	29	700,279	819,465	-119,186	-14.54%							
和歌山	15	15	248,438	272,314	-23,876	-8.77%							
兵庫	109	109	2,025,557	2,313,157	-287,590	-12.43%							
関西計	237	237	4,586,298	5,208,781	-622,483	-11.95%							

北海道は北海道ゴルフリゾート調べ、東北はTGA調べ、栃木は県G場協議会調べ、東京は都G場支配人会調べ、山梨は県G場支配人会調べ、中部はCGA調べ、関西はKGU調べ、中国はCGU調べ、四国はSGU調べ、九州はGUK調べ
一季出版(株)・隔日刊『ゴルフ特信』集計

海道や安倍晋三首相が外出やイベントの自粛、学校の休校などを求め暗転を迎えるのだが、2月トータルではビクともしない増加気配だった。

そして、3月は学校の一斉休校が始まり、週末の外出自粛も始まるが、海外の感染拡大の影響で国内でも感染者数が急増した。3月22日に安倍首相は7月の東京五輪延期を決断するに至る。それから自粛ムードが拡大しつづけて感染者数が一層増加した。ゴルフ場も3月は4・85%減と新型コロナウイルスの影響が明確となってきた。

4月になると、ご存知のように政府から緊急事態宣言が発出され、特に東京都など首都圏や大阪、愛知などの都市圏は外出自粛の要請が強まり、ゴルフ場も31・93%減と天候以外の要因ではかつてなかった落ち込みとなった。

5月もGW明けまでは警戒感が続きゴルフ場も25・48%減を記録、6月になって県境を越える移動も認められて12・46%減まで回復している。

6月の回復で上半期ゴルフ場の入場者数は前年対比で12・97%の減少まで回復しているもの。

ただし、この集計では関東が3都県しか含まれておらず、また来場者数が回復していても売上、収益面では厳しいままかも知れない。

月次情報を公開しているアコイディア・ゴルフ・トラスト（AGT）の6月は、前年同月比0・5%の増加、過去3年平均値比1・8%の増加。稼働率は82・5%で、前年同月比0・7Pの上昇、過去3年平均値比でも2・2Pの上昇という。4～6月累計は、4月と5月が新型コロナウイルスの影響を大きく受けたことから、12・3%の減少（4～5月累計18・3%減、過去3年平均値比11・4%の減少（17・5%減）、稼働率は75・3%で前年同期比9・7Pの下落（14・8P下落）、過去3年平均値比8・4Pの下落（13・7P下落）となっている。

（株）平和及びパシフィックゴルフマネージメント（株）（PGM）発表の6月月次営業実績は、来場者数11・6%の減少、営業収益は24・4%の減少、顧客単価は16・7%の減少だった。入場者、営業収益、顧客単価とも4月以降マイナス続きとなっている。

説明によると、6月は土・日祝

**動態統計の5月は売上高46%減
4月の49・1%減とほぼ同等**

経産省の「特定サービス産業動態統計」でのゴルフ場の動向は、本誌8月号で詳しく報じた通り。今年4月は利用者が前年同月比37・2%減少、売上高に至っては48・7%というほぼ半減に近い減少であった。経済産業局所在の8都道府県だけを集計していることから感染者数の多い地域の集計となっており、『ゴルフ特信』が調べた地域の集計より、下げ幅が大きかった。

5月の動態統計についても、ゴルフ場（経済産業局所在の8都道府県のゴルフ場）利用者は30・8%の減少、売上高は46・0%の大幅減少となり、利用者数、売上高とも3カ月続けての減少となった。

新型コロナウイルス拡大の影響により、3月に利用者数19・9%減、売上高16・9%減、全国に緊急事態宣言が発令された4月は37・7%減、49・1%減となり、5月は若干減少率も緩和したが、1カ月間で前年同月比が30%以上の減少となったのは比較できる2000年1月以降、今年4月が初めてだっただけに、5月も30%を超えるという21世紀で初めての事態となっている。

3〜5月まで3カ月間でのマイナスポイント合計は、利用者数マインナス88・4P、売上高マインナス112Pとなった。

東日本大震災があった2011年3〜5月がマインナス26・7P、マインナス43・3P、西日本豪雨等の2018年7〜9月でマインナス45・6P、マインナス39・5Pに過ぎず、今回のコロナショックによるゴルフ場業績への影響度は大震災や豪雨の3〜4個分になる。しかも、過去の自然災害の際には反動増加が到来したが、

令和2年5月ゴルフ場市場動向

経済産業省
動態統計調査速報

	R2年	R1年	増減	率
売上高合計 (百万円)	5,295	9,804	-4,509	-46.0%
利用料金収入計	3,847	6,632	-2,785	-42.0%
平日	1,668	3,001	-1,333	-44.4%
土・日祝日	2,179	3,631	-1,452	-40.0%
キャディフィー	876	1,589	-713	-44.9%
食堂・売店 (直営)	572	1,583	-1,011	-63.9%
利用者数合計 (人)	694,251	1,002,999	-308,748	-30.8%
会員計	256,275	282,137	-25,862	-9.2%
平日	97,808	108,092	-10,284	-9.5%
土・日祝日	158,467	174,045	-15,578	-9.0%
非会員計	437,976	720,862	-282,886	-39.2%
平日	239,828	396,629	-156,801	-39.5%
土・日祝日	198,148	324,233	-126,085	-38.9%
月間平均営業日数	27.7	30.1	-2.4	-8.0%
営業ホール数	4,590	4,662	-72	-1.5%
従業者数合計 (人)	10,574	10,567	7	0.1%
正社員	4,524	4,485	39	0.9%
パート等	6,050	6,082	-32	-0.5%
キャディ数 (人)	5,519	5,800	-281	-4.8%

18ホール換算

	R2年	R1年	増減	率
売上高合計 (百万円)	20.76	37.85	-17.09	-45.1%
利用料金収入計	15.09	25.61	-10.52	-41.1%
キャディフィー	3.44	6.14	-2.70	-44.0%
食堂・売店 (直営)	2.24	6.11	-3.87	-63.3%
利用者数合計 (人)	2,723	3,873	-1,150	-29.7%
会員計	1,005	1,089	-84	-7.7%
非会員計	1,718	2,783	-1,066	-38.3%
1日当たり	98.3	128.7	-30.4	-23.6%
客単価 (円)	7,627	9,775	-2,148	-22.0%
従業者数合計 (人)	63.1	63.2	-0.1	-0.1%
正社員	17.7	17.3	0.4	2.5%
パート等	23.7	23.5	0.2	1.0%
キャディ数 (人)	21.6	22.4	-0.8	-3.4%

増減率は経済産業省発表、18H換算は本紙で算出の参考値

今回は世界的な感染症で先が読めない状況だ。1〜5月の累計では利用者数が18・6%減、売上高は26・9%減で、やはり今年2月の暖冬での大幅増（利用者数13・5%増、売上高16・9%増）の貯金で累計だとダメージは和らいでいる印象だ。

5月の動態統計調査の内訳を詳しくみると、利用料金収入が平日で44・4%減、土・日祝日で40・0%の大幅減となった。その他売上高では食堂・売店（直営）が63・9%減（4月は60・3%減）、キャディフィー44・9%減（同）と4月に続きスループレーススタイルに切り替えて、レストランの営業を

縮小したり閉鎖した影響が数字に現れている。利用者数は平日で会員9・5%減（16・2%減）、非会員39・5%減（35・8%減）、土・日祝日は会員9・0%減（27・3%減）、非会員38・9%減（55・3%減）となり、会員の減少率は比較的低く、非常時に頼れる“会員の行動を示している”。

5月の客単価（1人当たり利用額）は4月（7932円）同様に8000円を割る7627円で、前年同月比2148円、22・0%の大幅下落となった。1日当たりの利用者数は1000人を下回る98・3人で前年同月から30・4人、23・6%減少したが、4月の78・

0人より20・3人増加した。
売上高の半減は本誌が実施しているWebアンケートで予想されたことだが、動態統計の20年間の過去データをみても異例の事態であることがわかる。

また、5月のゴルフ練習場は、売上高が前年同月比25・5%減、利用者数は土・日祝日が20・9%減で、トータルでは17・9%減となった。売上高は・利用者数とも3カ月連続の減少であった。5月の稼働打席数は4月より22%増加し、稼働打席当たり利用者数は117人で4月の101人より大幅に増加した。

5月の対個人サービス売上等の趣味・娯楽関連は、ほとんどが閉鎖した遊園地・テーマパークが98・8%減(4月98・9%減)だったほか、ボウリング場87・8%減(92・4%減)、パチンコホール77・5%減(61・8%減)で、ゴルフ場46・0%減(49・1%減)、ゴルフ練習場25・5%減(34・1%減)となり、引き続きゴルフ練習場の落ち込みが最も少なかった。

他の個人サービスの教養・生活関連では結婚式場98・0%減(92・1%減)、フィットネスクラ

ブ93・8%減(70・0%減)、葬儀場23・6%減(24・2%減)、学習塾21・9%減(14・7%減)だった。

対事業所サービス業では4月にプラスの業種もあつたが、5月はインターネット付随サービス業2・6%減(1・6%増)、情報サービス業5・1%減(13・8%増)など10業種とも減少、もつとも減少したのは広告業30・9%減(21・3%減)だった。

先のゴルフ特信の集計による6月のゴルフ場入場者数は12・46%減まで回復してきたので、動態統計でも6月は4、5月より回復すると見込まれるが、売上は少し厳しい見込みだ。動態統計6月分は本稿締切時点でまだ発表されていない。

本誌上半期総括アンケート

そこで、本誌のwebアンケートから上半期の回答をみてみよう。今回のゴルフ場アンケートは「上半期総括アンケート」として実施約80件(所在地で集計した項目はグループ本社の回答を除外)の有効回答をいただいた。

まず尋ねたのは、「今年上半年

の売上への影響度合いについて」で、④20〜30%の減収が39・5%、⑤30〜50%の減収が34・2%、③10〜20%の減収が14・5%などとなった。中央値は30%以上減収を超えそう。

年間の売上予測では④20〜30%の減収がやはり最多で38・2%、⑤30〜50%の減収が27・6%、③10〜20%の減収が23・7%と、④は半年間の実績と比べ年間予測で1Pほど下がったのだが、⑤の大幅な減収である30〜50%の減収が半年の実績より7Pほど下がり、逆に③の10〜20%減収は9Pほど

●売上への影響度合いについて(上半期)

所在地	①5%未満の減収	②5〜10%の減収	③10〜20%の減収	④20〜30%の減収	⑤30〜50%の減収	⑥50%以上の減収	総計
①北海道				2	2		4
②東北			1	1	2		4
③関東		2	1	8	12	2	25
④静甲信越				4	4	1	9
⑤中部	1		5	2			8
⑥関西	1		2	6			9
⑦中四国			1	4	3		8
⑧九州・沖縄	1	1	1	2	3		8
総計	3	3	11	30	26	3	76
	3.9%	3.9%	14.5%	39.5%	34.2%	3.9%	

●上半期入場者数について

所在地	①5%未満の減少	②5〜10%の減少	③10〜20%の減少	④20〜30%の減少	⑤30%以上の減少	⑥5%未満の増加	⑦5〜10%の増加	総計
①北海道			1	2	1			4
②東北		1	1	1	1			4
③関東	1	1	2	10	11			25
④静甲信越			3	5	2			10
⑤中部	2	1	3	1			1	8
⑥関西		2	1	5		1		9
⑦中四国			2	2	4			8
⑧九州・沖縄	2	1	2	1	2			8
総計	5	6	16	27	21	1	1	76
	6.6%	7.9%	21.1%	35.5%	27.6%	1.3%	1.3%	

増えている。
入場者数については上半期実績について、④20〜30%の減少が35・1%、⑤30%以上の減少が27・3%、③10〜20%の減少が20・8%などで中央値は30%減少を超えそう。

年間入場者数については、④20〜30%の減少が33・8%、③10〜20%の減少が31・2%で、⑤30%以上の減少は18・2%と半年の実績より9Pほど下がった。

毎月、アンケートに答えていた

●年間入場者数について（予測）

所在地	①5%未満の減少	②5～10%の減少	③10～20%の減少	④20～30%の減少	⑤30%以上の減少	⑥5%未満の増加	⑦5～10%の増加	総計
①北海道			2	1	1			4
②東北			3		1			4
③関東	1	3	5	10	6			25
④静甲信越			3	4	3			10
⑤中部	2	1	4	1				8
⑥関西		2	3	3			1	9
⑦中四国			2	5	1			8
⑧九州・沖縄	1	1	1	2	2	1		8
総計	4	7	24	26	14	1	1	77
	5.2%	9.1%	31.2%	33.8%	18.2%	1.3%	1.3%	

いただいたゴルフ場の所在地別では「関東」が32・5%とほぼ3分の1を占め、上半期入場者実績よりも数値が低いのはその影響があるようだ。

次に「新型コロナウイルス感染防止対策について」の質問では、78件回答があった中で「②従業員のマスク着用」と「⑥換気・消毒と距離保つ施策」が97・4%の76件とほぼすべて実施しており、④従業員の検温・体調管理91%、③来場者へのマスク着用奨励66・7%が過半

数を占めた。以下は⑧浴室の使用制限（シャワーのみ）34・6%、⑩スループレー30・8%、⑤来場者の検温28・2%が多かった。複数をセットで回答するケースも多

く、「②従業員のマスク着用③来場者へのマスク着用奨励④従業員の検温・体調管理⑥換気・消毒と距離保つ施策⑧浴室の使用制限（シャワーのみ）」をセットで回答したのが10件で最多、「②従業員のマスク着用③来場者へのマスク着用奨励④従業員の検温・体調管理⑤来場者の検温⑥換気・消毒と距離保つ施策」が8件、「②従業員のマスク着用③来場者へのマスク着用奨励④従業員の検温・体調管理⑥換気・消毒と距離保つ施策」と、「従業員のマスク着用③来場者へのマスク着用奨励④従業員の検温・体調管理⑥換気⑩スループレー」が7件で続いた。

このあたりが現在のゴルフ場における平均的なコロナ対策かも知れない。

選択肢の①は「業界ガイドラインすべて遵守」を据えたが回答は7件だけ。本誌8月号の25ページで取り上げたようにゴルフ場団体

のガイドラインは7月1日までの「浴室並びに脱衣室の使用は閉鎖する」と一文があったことから、浴室を使用していたところは①を選択できなかったのかも知れない。

業界団体では「業界ガイドライン」は「遵守が最低ラインです」と説明している。他の業界では地域毎のガイドラインを作る動きがあり、一考が必要だろう。

次の質問では、その業界ガイドラインが浴室に関する使用指針を明記したことから、浴室の使用を聞いたところ、回答があった77件中34件が「浴室は以前から使用再開」と答えている。次に多いのは「7月から浴室の使用再開した」が22件で、そのほぼ半数の10件が関東となっており、明らかにガイドラインができて使用再開に至ったことがわかる。

ゴルフ場は新型コロナウイルスの感染拡大防止に関する取り組みをホームページ等で公開するところが多くなっており、ゴルフ場予約サイトのGDOや楽天GORAでもイラスト付きでコロナの感染対策を紹介している。

その楽天GORAでは予約可能な国内ゴルフ場において、新型コ

ゴルフ場業界としての『「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止ガイドライン』 一部改訂（2020年7月1日改訂）

- 【追加改訂】3.脱衣室・浴室を使用する場合、実行すべき事項
- プレーヤー同士の脱衣室・浴室・浴槽での会話を自粛するよう要請する。
 - 脱衣室・浴室・浴槽における「身体的距離の確保」（※）に注意を促す。
 - 脱衣室・浴槽の定期的な換気を実施する。
 - 脱衣籠（脱衣棚）等の備品は使用後に流水で水洗いするよう促す。
 - 風呂桶などの共有する備品は使用後に流水で水洗いするよう促す。
 - 化粧品・ブラシ等は持参するよう要請する。
- （上記の改訂に伴い、「浴室並びに脱衣室の使用は閉鎖する」を削除すると共に、項目番号について所要の改訂を行います。）
なお、本ガイドラインは、今後の各地域の感染状況を踏まえて随時見直しを行いますので、ご留意ください。

一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会（NGK）ホームページより

ロナウイルス感染症の対策状況を7月1日から順次公開している。緊急事態宣言解除後の6月上旬に、ユーザーヘラウンドに対する意識調査を実施、その結果を踏まえて、「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止ガイドライン（NGK、PGS作成）を参考に、楽天が新型コロナウイルス対策13項目を独自に作成した。楽天GORAのゴルフ場のトップページから「コースガイド」に入ると、新型コロナウイルスの対策について①換気、②消毒液設置、③マスク、④検温（スタッフ）、⑤検温（お客様）、⑥バッグ積み下ろしのセルフ化、⑦

受付飛沫防止シート、⑧チェックイン／チェックアウト、⑨カート消毒、⑩バンカーレーキ、⑪ワングリップOK、⑫お食事、⑬浴場関係——が並んでおり、対策を行っている項目は一目で確認できるようにになっている。これによって、ユーザーは事前に各ゴルフ場の対策状況を確認した上で、予約ができるようになるとしている。

さらに、ゴルフ場向けにマスク着用や手の消毒といった感染症対策をまとめた特設サイト「PLAY SAFE」を開設し、各対策を掲示したポスターをゴルフ場に配布。コロナ禍の新しいマナーを啓発し、誰もが安心してゴルフを楽しめる環境づくりに取り組んでいくという。

ところで、6月初旬に実施した「緊急事態宣言解除後のゴルフ場予約に対する意識調査」は、過去1年間に楽天GORAでゴルフ



予約をしたユーザー9628人から回答があったとしている。

「ラウンドに対する意識を教えてください」の質問では、「普段通りラウンドする」52%、「普段より回数を減らしてラウンドする」37%と、9割近くがコロナ禍でもラウンドプレーへの意識が強い結果となっている。ラウンドをする場合、どんなプレースタイルでラウンドしたいですか（複数回答可）については、「休憩なしスループレー」70%、「セルフプレー」42%、「休憩付プレー」38%、「ツースサムプレー」31%などで新しいプレースタイルを受け入れているようだ。ゴルフ場来場時、ゴルフ場のコロナ対策において気になるところがあれば教えてください（複数回答可）では、「昼食等でのレストラン利用時」57%、「浴室利用時」54%、「ロッカールーム利用時」47%、「消毒液の設置」32%、「ゴルフファーマスクマナー（プレー以外）」27%などで、クラブハウス内での対策に集中していた。

雇用調整助成金は3分の2が利用

本誌のアンケートに戻ると、コ

ロナ禍で4、5月に売上が落ち込んだゴルフ場は資金面や雇用維持にどう取り組み、国の経済対策をどう利用、検討しているのか尋ねた。

一番多かったのが、③雇用調整助成金（休業手当助成）の51件で、3分の2の66・2%が選択、以下、⑨固定資産税の減免45・5%、②売上半減以下の持続化給付金33・8%、①無利子・無担保融資と、④コロナ休業支援金・給付金が20・8%、⑧納税の1年間猶予14・3%、⑤半年3分の2補助の家賃等補助金13・0%、⑥IT補助金やその他助成金等9・1%となった。

これら「諸制度についての感想」では「申請が煩雑すぎ」などの意見が目立った。給付基準にあと少し足りないなどの意見も目立ったが、給付金や補助金は助かることは間違いない。④コロナ休業支援金・給付金は従業員、⑤半年3分の2補助の家賃等補助金は借地や河川占有料も対象になるので対象となる可能性のあるものは確認しておきたい。

ただし、7月22日から始まっているGotoキャンペーンについ

●資金面・諸制度

①無利子・無担保融資	16	20.8%
②売上半減以下の持続化給付金	26	33.8%
③雇用調整助成金（休業手当助成）	51	66.2%
④コロナ休業支援金・給付金	16	20.8%
⑤半年3分の2補助の家賃等補助金	10	13.0%
⑥IT補助金やその他助成金等	7	9.1%
⑦Goto関係の助成金・クーポン券	13	16.9%
⑧納税の1年間猶予	11	14.3%
⑨固定資産税の減免	35	45.5%

かりにくさから、前向きな見方が少なかった。

夏季の予約状況は、②まだコロナの影響で少な目が46・8%とほぼ半数、①例年並みに予約がある14・3%や、④例年より良くないが前月より向上11・7%もあったが、③感染拡大でキャンセル増えしたが9・1%あり、関東中心に目立った。中部や九州では豪雨や土砂災害でのキャンセルを報告する意見もあった。

今後については、①「来場者と従業員の健康優先」が85・7%と最大、④「レストラン等の再開、充実で回復目指す」と、⑤「収入に見合った運営体制に改善中」がともに39・0%、⑨「需要に応じて変化を求める」37・7%などで、③「スループレー中心でGFでの

ては「①キャンペーン活用予定なし」44・2%が最多で、感染者数が再び増えていることや、東京都発着除外などわ

「収益体質」は5・2%だけだった。アンケート回答者のコメントは表にある通り。人の移動や商業施設の営業の解除で、再び感染者が増えており、若者中心に無症状の人の割合も多い。感染を避ける努力、感染者が出たときの対処などを怠らないことが必要だろう。

最後に7月になって従業員から陽性者が出た東京都下のゴルフ場の支配人から対処方法を聞くことができた。

感染拡大防止のために、業界が

イドラインに基づき、従業員とお客様の検温や消毒を徹底、レストランにはフロントで行っているようなアクリルパネルを設置し、乗用カートにも透明ビニールシートで飛沫防止対策を実施したという。またハウス内や乗用カート乗車時のマスクの着用をお願いし、持参していない場合はマスク購入をお願いしているという。

3密、大声が今の感染で多く、家族や少人数以外でのマスク無しでの会食や移動は特に留意する必

●諸制度についての感想

- ・どんな制度も結局経営が楽にはならない
- ・手続きが煩雑で、書式の変更が多く手間がかかる。運転資金は預託金で何とか賅っている。
- ・助成金の説明会に行って利用できるのは分かったのだが、コロナ後にも助成金など従業員から請求されたり、現在、あまり出勤していないパート・アルバイトにも助成金を出す可能性もあり、会社側が制度使用に積極的ではない。個人で請求できるように制度改革した方がいいと思う。
- ・届け出が、提出書類の多さ、簡素化してほしい
- ・助かりますが、手続きの簡素化が課題
- ・利用した制度は無い
- ・運転資金は確保した。
- ・煩雑な手続きが必要なが大変です。Gotoキャンペーンはまだわからないことが多い。
- ・本社から資金調達している。国や地方自治体の対策をすべて生かし切れていない
- ・持続化給付金の対応は早かったが、雇用調整助成金はまだ対応がない
- ・資金的には今のところ余裕があるんですが、今後の状況悪化に備えて無利子無担保融資を受けました。
- ・諸制度を利用し何とか持ち堪えている。持続化給付金の要件緩和を希望する。
- ・申請が煩雑すぎ
- ・申請が複雑だった
- ・グループなので詳細の制度利用が分からない。
- ・書類はどれも難しい手続きと感じている
- ・雇用調整助成金手続きが分かりにくい。資金状況は悪化しつつある。
- ・資金的には安定な状況といえる
- ・審査基準(検証)が曖昧なのに対し、手続きが面倒
- ・売上がギリギリ半減しなかった為、持続化給付金を受け取る事ができなかった。ほぼ半減だった為、制度に疑問あり。減少の割合に応じて給付してほしい。
- ・まだ利用していない。内保資金が徐々に減っている
- ・無利子での融資を検討したが、資金繰りの見直しにより融資は撤廃

●アンケートのご感想

- ・PCR検査で従業員全員の陰性を確認してから営業許可を出すべき。県を跨ぐ移動もPCR陰性の診断書を確認して許可するべき。
- ・ゴルフ業界の新型コロナに関する通常の対策と珍しい対策の特集を掲載して欲しい
- ・コロナウイルス以外にも梅雨の長雨の影響も大きいのでコロナによる数字ではない。ゴルフは天候の影響が大きいと感じている。
- ・コロナウイルス感染予防対策済シールを業界として作成したらどうか？
- ・コロナの感染状況が収束に向かわず、回復への兆しが見えない。
- ・コロナ対策は、エリアによって違ってくると思う。
- ・スループレーやお風呂無などの形態へ変更していけば良いかもしれないが、地方では、プレー料金自体が低価格の為、検討中。
- ・プラント等の企業が多いがコンペ開催自粛が会社より禁止命令が出ている。土日の集客に苦戦中!
- ・まだまだ厳しい状況が続くと思われませんが、安全と安心を届けられるように運営をいたします。
- ・関東・関西をみるとすでに第二波がきているように感じる。来場者の体調を見極める必要がある。陽性者が入場すればかなり厳しい状況に追い込まれると思う。
- ・緊急事態宣言解除後に、感染拡大が再発しているので、今後の動向が不安
- ・今回のコロナ禍で会社の従業員に対する姿勢というものも垣間見えたと思う。国だけでなく、ゴルフ業界や協会自体で、お客様の安全はもちろんのこと、従業員の生活・安全を守るように積極的に働きかけてほしいと思う。
- ・先行き不透明感がぬぐえず、感染予防対策の継続が懸念される
- ・早期に検査体制を整えてほしい。ワクチンの完成を期待。
- ・他のゴルフ場で実施されており、好評な対策があれば教えていただきたい。
- ・特に土日祝日のコンペ減が痛い。
- ・来年まで影響が予測される中、従業員から感染者がいつ出てもおかしくない状況で感染者が出た時のリスクが高すぎる。サービス業の施設で従業員から感染者が出た場合の保健所のガイドラインがあれば知りたい。

●夏季の予約状況について

所在地	①例年並みに予約がある	②まだコロナの影響で少な目	③感染拡大でキャンセル増えた	④例年より良くないが前月より向上	総計
①北海道		2	2	1	4
②東北		4	2	1	4
③関東		15	7	4	25
④静甲信越	1	7		2	10
⑤中部	2	4			8
⑥関西	4	5			9
⑦中四国		6		2	8
⑧九州・沖縄	4	2	1	1	8
総計	11	36	7	9	77
	14.3%	46.8%	9.1%	11.7%	

要がありそうだ。なるだけ早く、東京の人も「Goto」ができるよう、可能な対策を各自、各企業がしっかりと実行したいところだ。

佐賀県の15ゴルフ場は8月から3集めたら3千円のプレー補助券がもらえるスタンプリーを自力で始めた。会員と県内住民を対象としているが、他のプランが相乗りすれば効果は大きそう。

当面は旅行、ゴルフも近場、マ